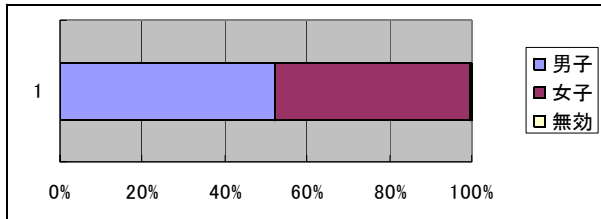


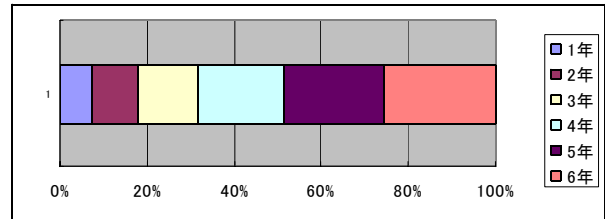
お子様の携帯電話に関するアンケート集計結果

* 実施時期：平成21年5月 * 調査依頼対象：市内小学校PTA役員・委員
* 実施人数：416名（回収率＝88.9％）

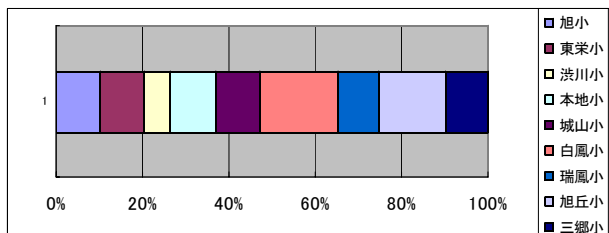
問1 あなたのお子様の性別はどちらですか。



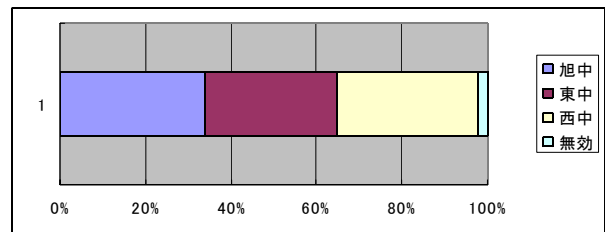
問2 あなたのお子様は何年生ですか。



問3 あなたのお子様の小学校はどちらですか。

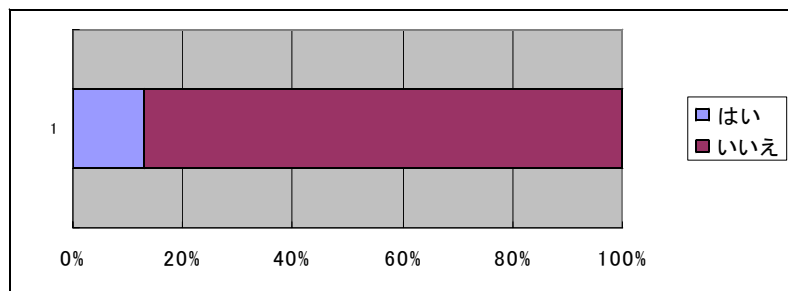


問4 あなたのお子様が進学する中学校はどちらですか。



問1から問4は基礎データ調査

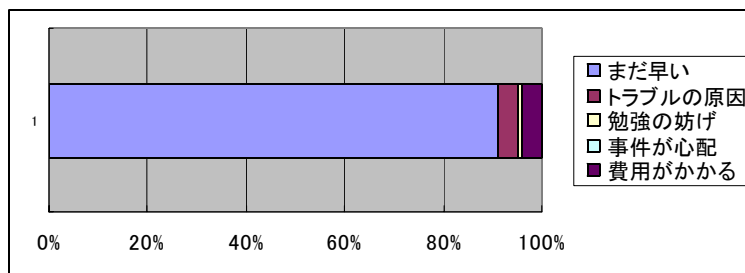
問5 あなたのお子様は携帯電話を持っていますか。（母数416人）



全体の所有率は13%である。中学校1年生対象の調査では、すでに1/3の生徒が小学生の内に所有しており、結果に違いが見られた。

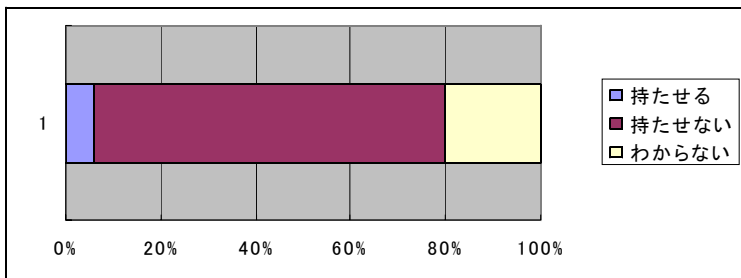
* 問6～問7は、問5で「②いいえ」と答えた方への質問です。（母数362人）

問6 持たせない理由に一番近いのはどれですか。



小学生に持たせるのはまだ早いという回答が90%を超えている。トラブル防止、費用の面を理由に挙げているのは数%に留まっている。

問7 今後、中学校入学までにお子様に携帯電話を持たせますか。

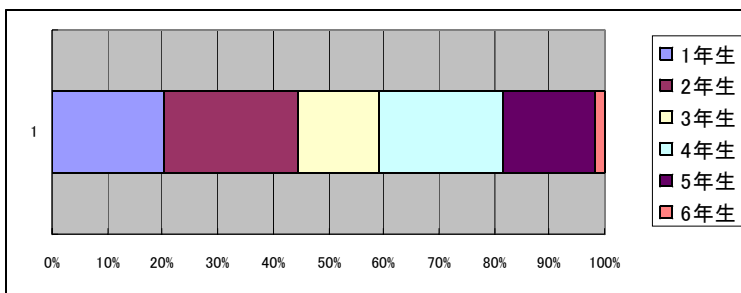


持たせるつもりという回答は5%程度であり、2/3は小学生の内は持たせないと回答している。問5と同様、意識と実態に違いが見られる。

*問8～問22は、問5で「①はい」と答えた方への質問です。(母数54人)

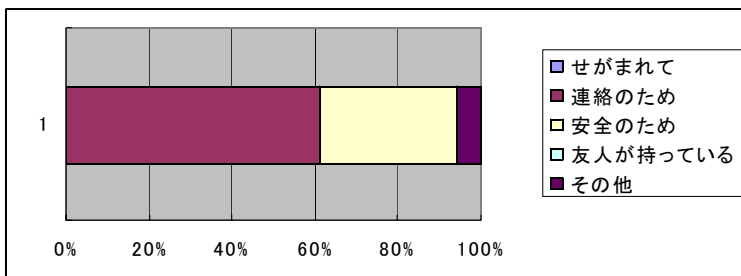
以下、問22までは、54人からの回答のため結果に偏りがある可能性を御承知ください。

問8 あなたのお子様には何年生から携帯電話を持たせましたか。



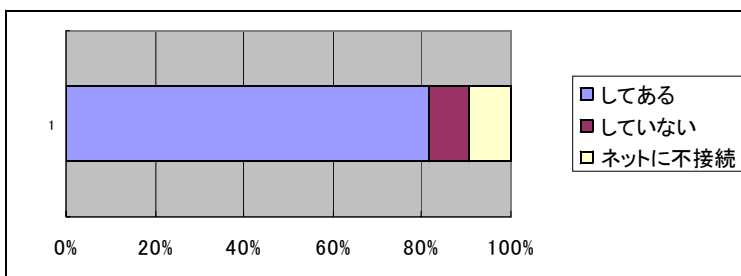
45%弱が低学年で、80%が4年生までに所有している。かなり早い段階から所有していることが分かる。

問9 あなたがお子様に携帯電話を持たせた1番の理由は何ですか。



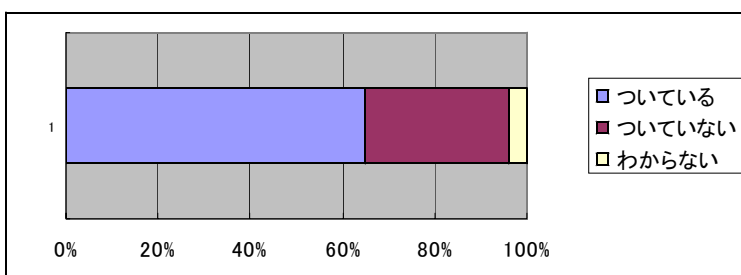
子どもとの連絡のため、安全のためという回答が90%を超えており、保護者の意志で持たせていることがうかがえる。

問10 あなたがお子様を持たせている携帯電話にはアクセス制限がしてありますか。



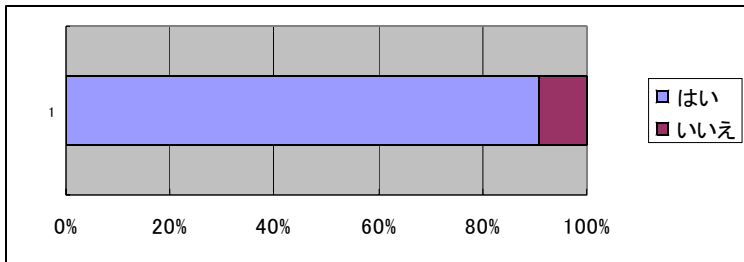
80%強にアクセス制限がしてあり、10%強がネットに接続していない。アクセス制限の義務化の効果が如実に表れている。

問11 あなたがお子様にもたせている携帯電話にはGPS機能を付けていますか。



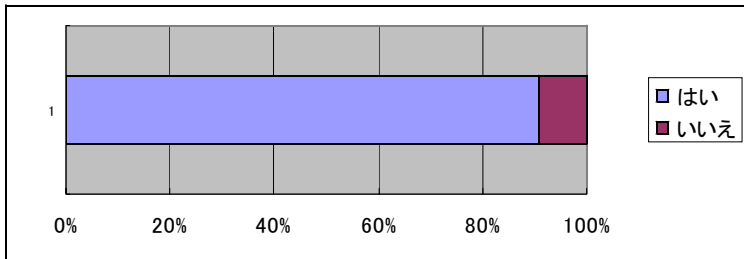
60%以上にGPS機能が付いている。低学年の所有率、携帯電話を持たせる理由の回答と呼応していると思われる。

問 12 学校への持ち込み禁止について指導しましたか。



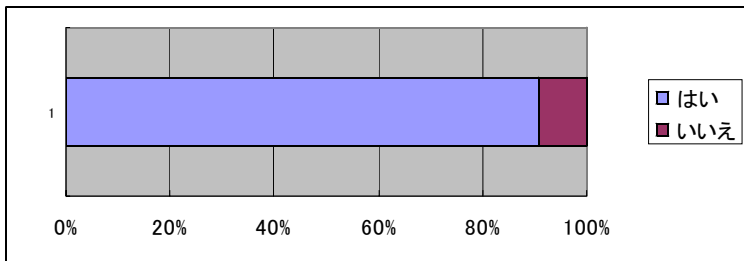
90%強が保護者から学校への持ち込み禁止の指導を受けている。

問 13 使用上のマナー（使用禁止場所・マナーモード設定等）について指導しましたか。



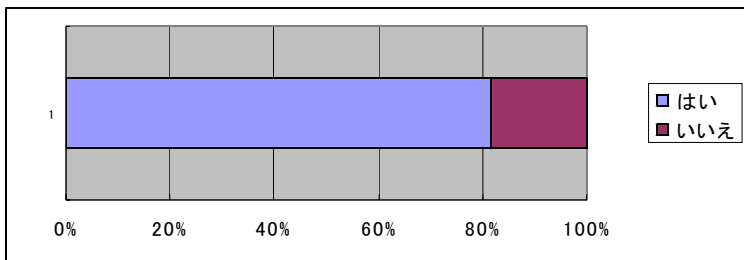
90%強が保護者から必要なマナーへの指導を受けている。

問 14 長時間の使用禁止について指導しましたか。



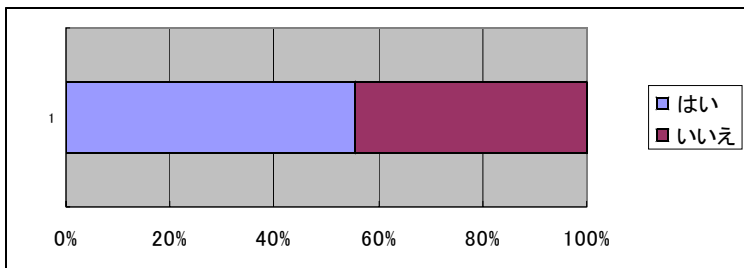
90%強が保護者から長時間の使用について指導を受けている。
問 12、13、14は、セットで指導されていると思われる。

問 15 使用時間帯について指導しましたか。



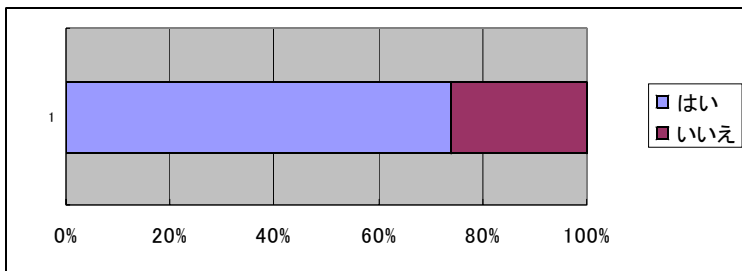
80%強が使用する時間帯について指導を受けている。
問 12、13、14の指導と連動していると思われる。

問 16 掲示板などへの誹謗中傷・悪口の書き込み禁止について指導しましたか。



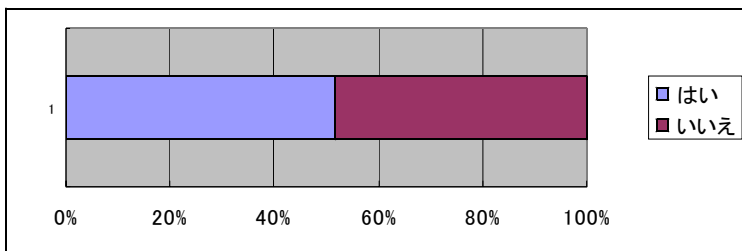
50%以上が誹謗中傷などの書き込みの禁止について指導を受けている。反面、半数近くは指導を受けていないとも言える。

問 17 有害サイトへのアクセス禁止について指導しましたか。



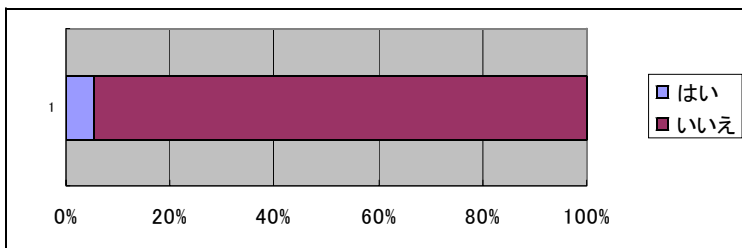
70%以上が有害サイトへのアクセス禁止の指導を受けている。

問 18 チェーンメールへの対応について指導しましたか。



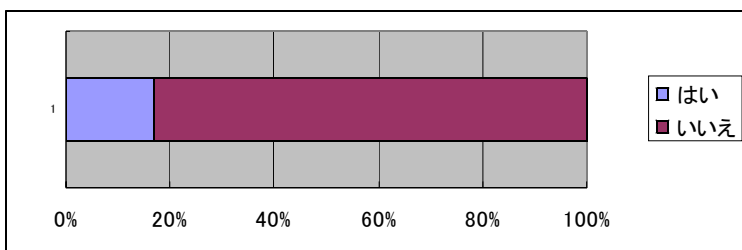
50%以上がチェーンメールへの対応について指導を受けている。問16同様、半数近くは指導を受けていないとも言える。

問 19 メールや掲示板で誹謗中傷されたことがありますか。



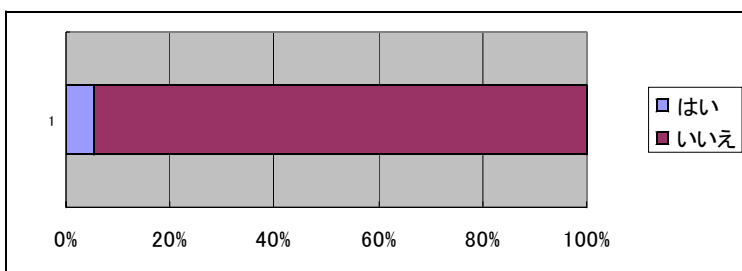
5%の小学生が、すでにネット上で誹謗中傷を受けている。中学校1年生の調査では、2%程度が被害を受けたと回答している。

問 20 チェーンメールが回ってきたことがありますか。



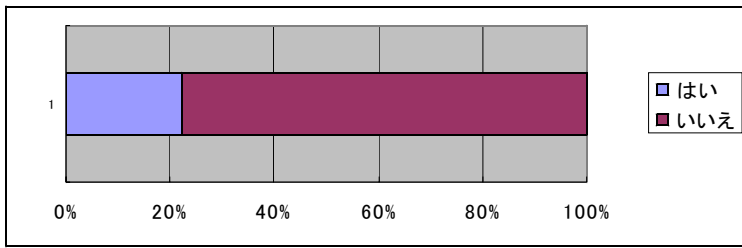
15%強がチェーンメールを受けたことがあると回答している。中学校1年生対象の調査では、50%が受けたことがあると回答しており、ここ1~2年で小学生に広まっている。

問 21 不正な料金請求をされたことがありますか。



小学校段階で、すでに5%程度の被害があった。中学校1年生対象の調査でも、ここ2年間2%程度の子どもが請求されている。

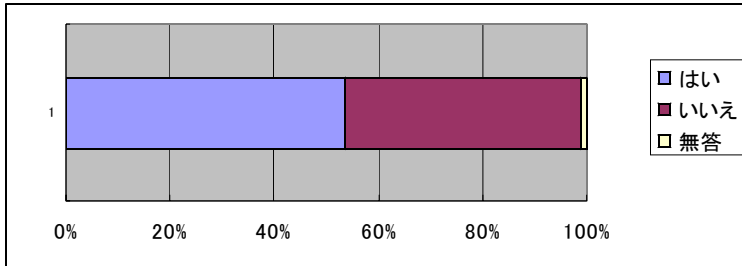
問 22 迷惑メールが届いたことがありますか。



20%強に迷惑メールの受信経験があった。防止が難しい面があるので、対処法を指導する必要がある。

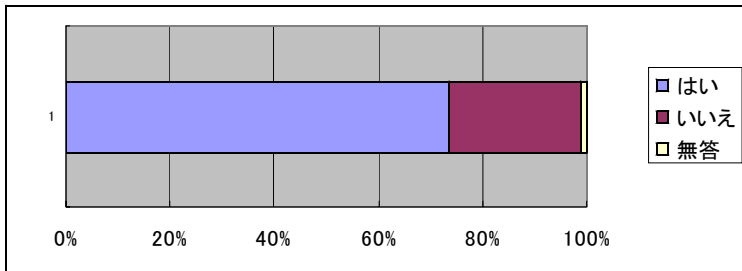
* 問 23 からは全員への質問です。(母数 416 人)

問 23 「プロフ」についてどのようなものか知っていますか。



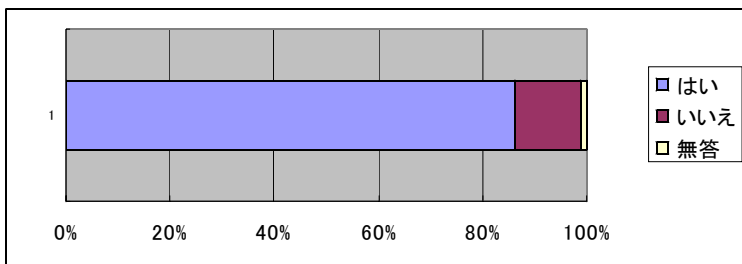
50%以上が知っているとは回答している。中学生のネットトラブルの基になるケースが多く、大人の監視が必要である。
プロフはプロフィールの略

問 24 「チェーンメール」についてどのようなものか知っていますか。



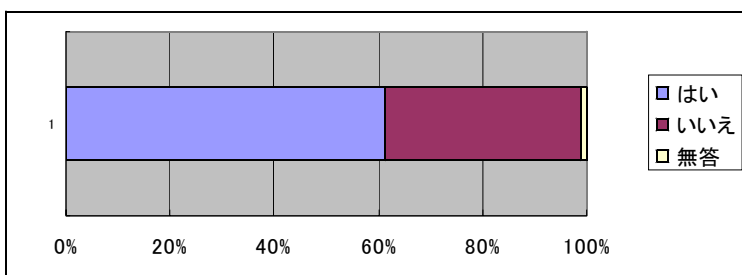
70%以上が知っているとは回答している。迷惑メールの典型的なものであり、対処法を指導する必要がある。

問 25 「出会い系サイト」についてどのようなものか知っていますか。



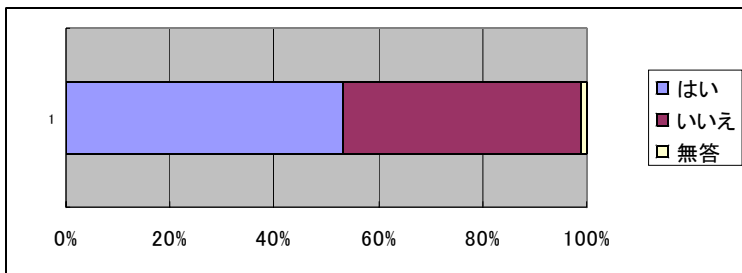
85%強の保護者が知っているとは回答している。保護者の認知度は高いが、子どもが犯罪に巻き込まれるリスクが極めて高いので、保護者への啓発が必要である。

問 26 「ワンクリック詐欺」についてどのようなものか知っていますか。



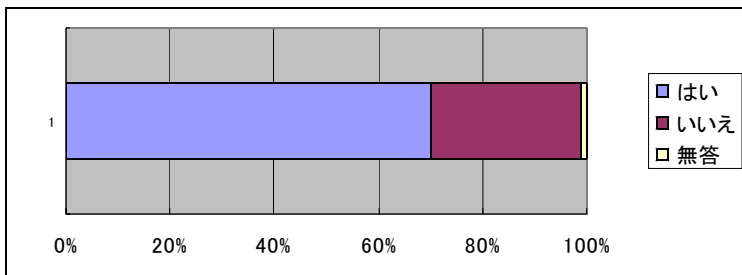
60%強が知っているとは回答している。チェーンメールや迷惑メールに伴って被害が発生する。

問 27 「なりすまし」についてどのようなものか知っていますか。



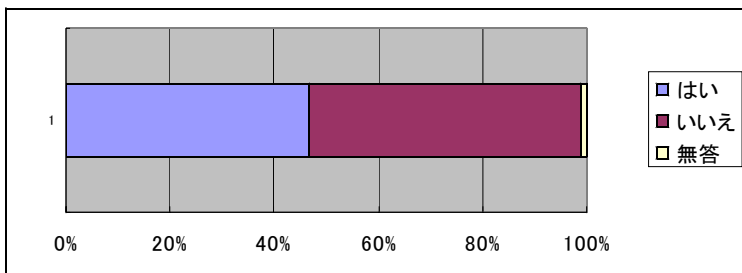
50%強が知っているとは回答している。ネットいじめの基になっている側面もある。

問 28 「裏サイト」「闇サイト」についてどのようなものか知っていますか。



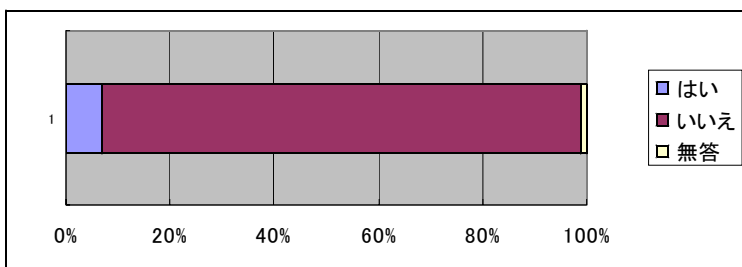
70%が知っているとは回答している。言葉だけなら認知度はもっと高いと思われる。

問 29 「ホームペ」についてどのようなものか知っていますか。



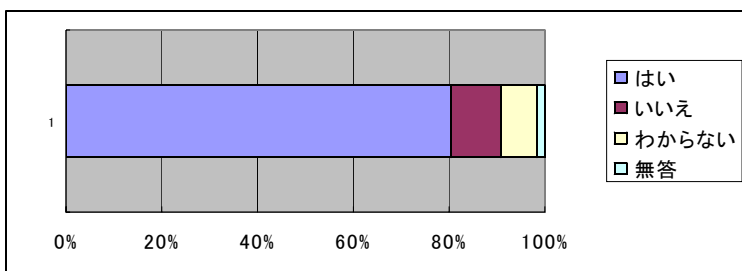
50%弱が知っているとは回答している。子どもが開設するホームページ（掲示板）の略称である。

問 30 「前略プロフィール」についてどのようなものか知っていますか。



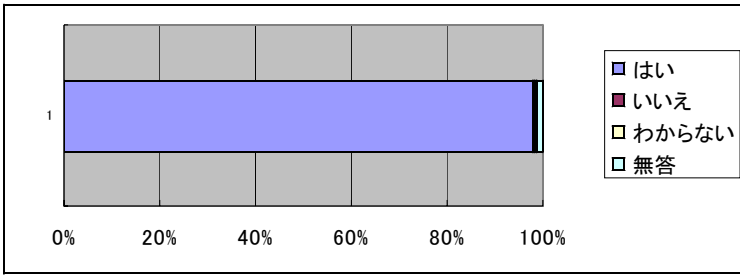
5%強が知っているとは回答した。プロフや掲示板を作成するための無料サイトの代表格である。

問 31 お子様に携帯電話を持たせることに心配はありますか。



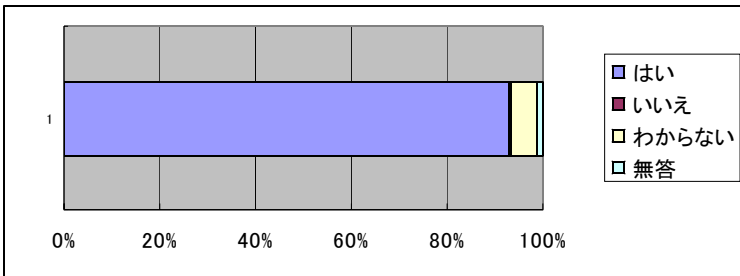
80%が心配しているとは回答している。中学1年生の調査では、携帯電話を使っていて心配する生徒は20%弱に留まっている。

問 32 初めて携帯電話を持たせる時、使用する上でのモラルや犯罪防止の指導をする必要があると思いますか。



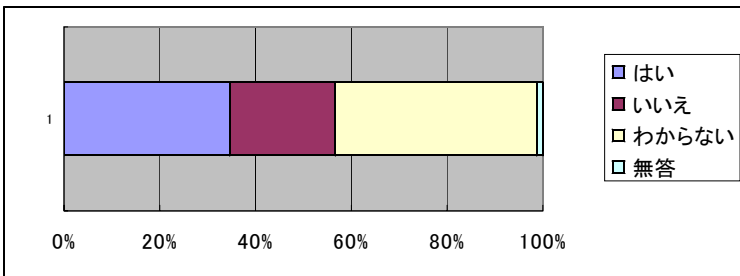
ほぼ全員が指導の必要性を感じている。

問 33 保護者にはお子様の携帯電話使用に関わるトラブルでの責任があると思いますか。



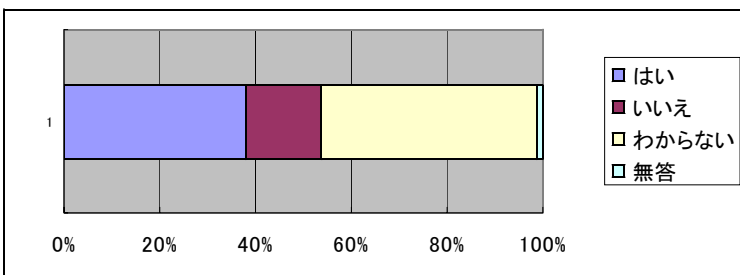
90%以上が保護者の責任を感じており、当事者意識が強いことが伺われる。

問 34 P T A 等で携帯電話に関わる問題について研修会を開く必要があると思いますか。



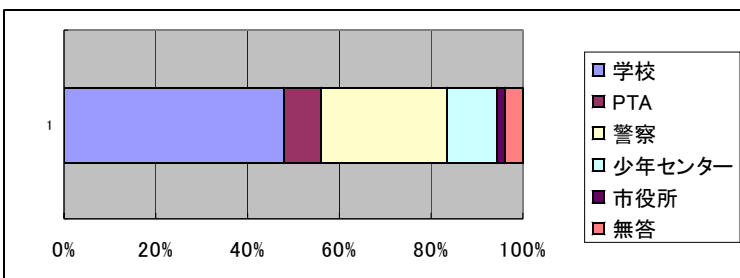
35%強がP T A の研修会開催を支持している。携帯電話を持たせることへの不安の割には低い数字と思われる。

問 35 携帯電話に関わる研修会が開催されれば参加しますか。



参加すると回答したのは40%以下に留まっている。問34と同様の傾向が伺える。

問 36 小中学生を携帯電話のトラブルから守るために下記の内どの機関の活動に一番期待しますか。



45%強が学校と回答し、30%弱が警察と答えている。学校での取り組み強化と共に、警察との連携が必要である。

結果から類推できること

- ・全体として小学生に携帯電話を持たせることには消極的である。(問5~7)
- ・持たせる家庭は、低学年から目的を明確にして(子どもとの連絡・安全のため)持たせている。(問8・9・11)
- ・アクセス制限してある割合が高く法改正の効果が見られるようになった。(問10)
- ・使用上のマナー指導は多くの家庭で行われている(問12~15)が、ネット接続に伴うリスク指導は不十分である。(問16~18)
- ・少数とはいえ小学校でもサイバー被害が起こっている。(問19~22)
- ・「出会い系サイト」などマスコミを通して耳にすることに比べ、子どものネット被害に直接結びつきやすい「プロフ」「なりすまし」「ホムペ」「前略プロフィール」の認知度が低い。(問23~問30)
- ・多くの方が子どもに携帯電話を持たせることに心配があり、モラルやリスク指導の必要性を認識し、トラブルの責任は保護者にあると考えている。(問31~33)
- ・しかし、研修会の開催や参加には消極的であり、子どもをサイバー犯罪から守るため学校や警察に期待している。(問34~36)
- ・全体に、(中学生の使用状況を基にした)当初の予想と比べ、保護者のモラルは高いと感じた。PTA役員・委員に依頼したアンケートのため、調査対象の無作為性が薄かったのかもしれない。

今後の課題

- ・未成年使用の携帯電話にはアクセス制限が義務化されるが、プロフや掲示板の作成やアクセス、音楽やゲームのダウンロードのために、子どもが制限の解除を求めるようになる。その時の保護者の対応の大切さを伝えていく必要がある。
- ・「プロフ」「ホムペ」等のキーワードとそのことが持つリスクの大きさを啓発する必要がある。
- ・サイバー被害が小学生にも見られる事実から、小学校5年生、遅くとも6年生の段階で、保護者と子どもに携帯電話使用に伴うマナー指導とリスク指導を実施する必要がある。
- ・PTAに呼びかけ、生徒指導部会で小学校保護者対象の「ケータイ安全教室」を実施する必要がある。